

上中里・氷取沢地区 小規模校再編検討委員会ニュース

平成17年11月3日 第4回検討委員会開催

今回は、両校の校舎・体育館など施設を見学した後、再編統合の時期、設置場所、通学区域など具体的な項目の検討を始めました。このうち、再編統合の時期については平成19年4月、校名案についてはアンケートを参考に選定することを検討委員会として決定しました。

次回は、通学区域と設置場所について、引き続き検討していきます。



平成17年11月3日 上中里小において

再編統合の時期は、平成19年4月 ~ 年度内の検討終了を条件に ~

前回(第3回)の検討委員会で、「年度内に結論を出せば、事務手続や改修工事等の準備期間を含め、最も早く平成19年4月に統合できる」との説明を事務局から行いました。

このことから、今回の検討委員会では、保護者の方々などからの「できるだけ早く統合を進めてほしい」という意見を踏まえ、統合に向けたすべての検討が平成17年度内終了した場合という条件で、平成19年4月を統合時期とすることを決定しました。

両校の施設を見学

会議に先立ち、両校の校舎・体育館・校庭などの施設を見学しました。施設面での疑問点については、同行したまちづくり調整局の技術担当職員から説明を受けるなど、各委員とも様々な視点で確認しました。



~ 施設見学の様子 ~

上中里小及び氷取沢小の施設状況比較

		上中里小	氷取沢小
敷地	敷地面積(㎡)	10,911	12,563
	有効面積(㎡)	9,803	8,744
	校庭面積(㎡)	3,734	2,754
校舎面積(㎡)	2	5,144	4,358
体育館(㎡)		607	726
構造・階数		鉄筋コンクリート4階	
保有教室	普通教室 3	19	16
	個別支援教室	2	2
	特別教室 4	7	6
新築年度		昭和48年	昭和56年
耐震補強	5	校舎(A棟)、体育館は実施済、校舎(B棟)のみ未実施	体育館は実施済、校舎は不要

- 1 施設管理課校地管理係調べ
- 2 給食室を含み、体育館、屋外倉庫等を含まない建築基準法上延床面積を示す。
- 3 普通教室のうちクラスルーム以外の教室は両校ともパソコンルーム、PTA会議室、はまっ子ふれあいスクール、防災備蓄庫等に活用
- 4 特別教室は、理科室、音楽室、家庭科室、図画工作室、図書室、視聴覚室、多目的室を示す。
- 5 耐震補強診断の結果、氷取沢小の校舎の耐震補強工事は不要
耐震補強診断の結果、上中里小の校舎(B棟)は耐震補強工事は不要の場合あり

～ 施設に関する補足説明（まちづくり調整局から）～

教室

- ・上中里小：7 m × 9 m = 63m² ・氷取沢小：8 m × 8 m = 64m²

廊下の形状

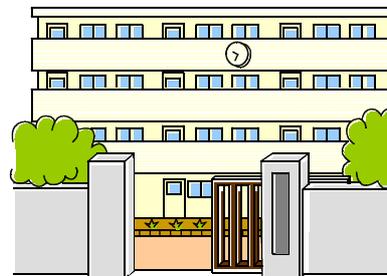
- ・上中里小：片廊下方式（横浜市の標準的な校舎）
- ・氷取沢小：一部中廊下方式（片廊下に比べやや広め）

耐震

- ・上中里小：A棟は耐震補強済み
B棟は現在耐震診断調査中（結果次第では補強が不要の場合もあり）
A棟とB棟の間の特別教室がある部分は、耐震診断の結果、補強不要
- ・氷取沢小：耐震補強工事済み

その他

- ・氷取沢小：4階部分に2教室分の増築スペースあり（増築した場合は、再度、耐震診断が必要）



施設に関する主なご意見・ご質問（回答は、特記しているもの以外は事務局）

氷取沢小の体育館の脇の崖の「コンクリート壁」の耐震性はどうなのか。

「擁壁」というものですが、学校用地の造成の際、擁壁にも基準があり、氷取沢小の擁壁もその基準に基づいて造っていると思うので、耐震上問題はないと思います。（まちづくり調整局）

氷取沢小の家庭科室・理科室などの特別教室の出入口は1か所しかなかったが、何か起きたときに対応できるのか。また、上中里小のB棟は、建物が古く廊下もゆがんでいたため、大幅な改修工事が必要なのではないかと。

本来、教室の出入口は前後に2つが原則となっていますが、氷取沢小はベランダを介して避難する形になっています。上中里小のB棟については、時間的な経過や建物の劣化度、形状、強度など様々な要素を加味し、耐震診断を行っていきませんが、古い建物でも構造上、補強の必要ない建物もあり、単に古いからといって耐震上弱いということではありません。（まちづくり調整局）

上中里小のA棟とB棟の建築年の差はあるのか。

A棟は昭和48年5月、B棟は昭和49年の完成なので1年程度しか変わりません。（施設管理課）

片廊下のためか、上中里小の方が明るく開放的な感じがした。氷取沢小は、廊下を広めにとっているが、何か事があって子どもたちが一斉に廊下に出たときなど片廊下の方がいいと思う。

体育館について、見た目では上中里小の方が広く感じたが、資料をみると氷取沢小の方が大きい。

床張りのアリーナ面積をみると、幅は16mで両校同じですが、長さは氷取沢小の方が2～3m程度長く、全体として広がっています。（施設管理課）

両校とも児童数が多いときに建てているので、統合しても増築をしないで今のままの状態ですると考えてよいか。

統合した場合の普通学級数の推移は、平成18年度まで13学級ですが、平成19年以降は12学級となる見込みなので、増築の必要はないと考えます。ただ、上中里小の方が保有教室が多く7教室余裕があるので、少人数指導教室やパソコンルームなどいろいろな教育ニーズに対応できるという利点はあります。

両校を比べると上中里小は平地にあるのに対し、氷取沢小は崖に囲まれ余裕がない感じを受けた。

両校とも改修が必要なので、どちらの施設を使うにしても教育委員会でそれぞれの学校が抱えている課題をクリアするだけの予算的な裏付けをしてもらえるかどうか。どちらの学校を使っても変わらないようにセットアップするのが行政の役割だと思う。

通学の時間や距離など物理的な問題は、大きいと思う。校舎については、氷取沢小の使い勝手はいいように思うので4階の部分を増築していけば、十分使えると思う。上中里小はB棟の使い勝手をよくする必要がある。また、上中里小を使うことになれば、それなりの全体構想は必要だと思うし、それに対応するだけの予算を用意することができるかどうか。

施設改修の予算については、活用する学校が決まった段階で、統合に当たっての必要な予算を確保していきます。

統合校の設置場所、統合校の通学区域、中学校の通学区域について議論

統合に際しては、設置場所を決めるとともに、統合校の通学区域も決める必要があります。通学区域の設定に当たっては、「学校規模」、「通学時間・通学距離」、「通学安全」、「地域コミュニティの関係」などを総合的に配慮して設定します。

上中里小と氷取沢小は、同じ道路の延長線上にあることから、両校の通学区域を合わせた通学区域とすることを基本に検討を始め、事務局から通学距離などのデータを説明しました。

また、統合校に係る中学校の通学区域については、友人関係の問題や今までの経緯などの問題を踏まえ、事務局から4つの案を説明しました。(下表参照)



通学距離・通学時間の比較

始 点	上中里小まで		氷取沢小まで	
	距離	時間	距離	時間
A 大崎団地付近	1350m	23分	1900m	32分
B 栗木交差点付近	950m	16分	1550m	26分
C 氷取沢町459番地付近	1000m	17分	600m	10分
D 興人磯子台マンション付近	1350m	23分	900m	15分

距離は、地図情報ソフトで測定。時間は、60m/分で計算

中学校の通学区域案

	内 容	現小学校別進学可能校	
		上中里小	氷取沢小
案1	統合校の通学区域全体を浜中	浜 中	浜 中
案2	統合校の通学区域全体を浜中 現氷取沢小区域に富岡中も選択できる特別調整通学区域設定	浜 中	浜 中 富岡中
案3	現上中里小は浜中、現氷取沢小は富岡中(現行の通学区域と同じ)	浜 中	富岡中
案4	現上中里小は浜中、現氷取沢小は富岡中 現氷取沢小区域に浜中も選択できる特別調整通学区域設定	浜 中	富岡中 浜 中

通学区域・設置場所についての主なご意見・ご質問 (回答は事務局)

氷取沢地区は、氷取沢小ができるまでは上中里小に通っていたので上中里小に通うことはあまり抵抗がないと思うが、大崎団地(以下「大崎」)から氷取沢小までは遠い。

実際、大崎から氷取沢小まで歩いてみたが、遠いと思う。まして小さい子どもが歩くとさらに遠いと感じると思う。

両校を見て、設備や学校の先生方の管理など甲乙つけがたく、情熱も感じた。どのように設置場所を決めたらいいか考えた場合、通学時間というのは大きいと思う。大崎から氷取沢小まで32分かるといのは気になる。また、中学校のことも考えなければならない。

大崎から氷取沢小までの通学時間は32分となっているが、大崎には(指定地区外就学許可で)洋光台第二小に通っている子どもがいる。同じ自治会で学校が分かると子ども会など不便だと思うが、設置場所が氷取沢小となった場合、洋光台第二小も選択できる調整区域の設定などは考えられるか。

仮に氷取沢小を設置場所にすると、大崎から距離的に近い洋光台第二小への通学区域の変更の話もでてくる可能性があり、設置場所の問題から通学区域などの別の問題へ影響するという事です。ただし、環状3号線を横断することになるので、通学時間だけではなく通学安全も含めて考えなければならないと思います。

大崎から洋光台第二小への就学について、そこに住んでいる方に洋光台第二小への就学希望があるのか聞いてきていただいたほうがいいのではないかと。それによっては通学距離の条件が変わり、設置場所を選ぶ視点が変わってくると思う。

洋光台第二小に移る特別な理由があれば別ですが、基本的には小規模校を適正規模にするという考え方で検討しています。仮に大崎の子どもが洋光台第二小に行った場合、残ったエリアで統合校の児童数・学級数はどうなるのかということも考えなければなりません。また、大崎の方に希望を聞くと設置場所が上中里小なら現行どおりでいいが、氷取沢小になると遠いから洋光台第二小がいいということが考えられ、要望の話と統合校の設置場所の話がセットになります。

登下校の時間的・距離的な部分で考えると、上中里小を使った場合は最も遠い大崎も興人磯子台マンションも23分と極端に変わるところがでない。ところが氷取沢小を使った場合は大崎団地は32分かかる。このような部分を考えてとき、毎日の安全を考えていかなければならない。

防犯体制について両校を比べてどうなのか。

《氷取沢小》基本的に出入口は1か所なので、そこについては、安全管理ができており、侵入者に対しては即、対応できる。ただし、校舎に非常階段がないので、昇降口を通過して避難するか、ベランダからシューターで避難するようになる。外部からの侵入に対しては一方向しかなく、すべて施錠してモニタで監視しているので比較的安全管理しやすい。その反面、いざというときの一斉避難の際には出入口が昇降口一つというデメリットもあり、メリットと背中合わせにある。(校長)

《上中里小》地域としての防犯体制は非常にしっかりしている。また、地域の方々の協力によって「上中里小学校学援隊」を組織し、学校防犯に対して支援体制をとっている。学校の防犯としては、年2回程度不審者対応訓練と教職員の研修を含めて外から入られないような対応をしている。ボランティアの方々が抑止力として周囲にいてくれる。(校長)

両校を見学したところ、修繕についても天井が落ちてきそうな状況のなかで、子どもを通わせて本当にいいのかという不安もある。そういった部分などもっと深く話すべきところがあると思う。

氷取沢小は、以前、小田中ができたときに全体集会を開いて、富岡中か、小田中か、浜中かを議論し、富岡中の通学区域となった。そのことも踏まえ、子どもたちにとってどちらがいいかPTA等で考えてもらったほうがいい。

興人磯子台マンション付近から浜中までは、どのくらいかかるのか。

30分以上かかるとはと思いますが、中学校では通学に30分を超えることは珍しくありません。また、氷取沢小からは現在、富岡中に通っているのでも無理して浜中に変更しなくてもいいと思います。

統合校の校名案について、全戸配布のアンケートを実施

再編統合は、「両校をいったん閉校し、新たな学校を誕生させる」という考え方にに基づき行います。「新たな学校」ですので、学校名も「上中里」でも「氷取沢」でもない全く新しい名前をつけることになります。検討委員会では、「新たな学校にふさわしい学校名案」を募集するため、自治会・町内会を通じて全戸配布のアンケートを実施することになりました。その際は、御協力をお願いします。

次回検討委員会の日程

平成17年11月24日(木)午後7時から上中里小学校で開催予定

ホームページのご案内

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

小規模校再編検討委員会へのご意見は、EメールかFAXで事務局にお送りください。ご意見は、検討委員会のなかで報告・検討させていただきます。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局学校計画課 Eメール：ky-isogo@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252